

社会を分析、ゲーム開発



自ら作成したゲームを紹介する生徒
=19日、豊田・田町の逢妻交流館で

豊田市太平町の衣台高校（祖父江達夫校長、生徒515人）情報ビジネスコース3年生が11月19日、逢妻交流館（田町）で課題研究発表会を行った。
【岡田さち代】

同校ビジネスコース3年生は研究テーマを設定し、主体的に研究を進める授業「課題研究」に取り組む。今年には研究会に目を向け分析して研究する15人とゲーム開発を行う14人に分かれて取

衣台高3年が研究発表

情報ビジネスコースの29人 形残したことを自信に

「研究は「コーヒー豆かすの素晴らしさ」「動画解析において重要性」「血液型別に新型コロナウィルスの感染率は変わるのか?」「治安」などをテーマに、文献やアンケート結果などから考察し、パワーポイントでまとめて発表した。

一方、ゲーム開発は「セイキンショット」「シューティングゲーム」「スラッシュシュアム」「ユーティリティ」の4作品。工夫した点や苦労した点などを伝え、ゲームを実演。同級生や教職員、来場者にも体験してもらった。

「コーヒー豆かすの素晴らしさ」を発表した大倉美姫さん（竜神中出身）は「コーヒーが好きなので調べてみたいと思いいテーマを選んだ。卒業後はスイーツとカフェの

「専門学校に進む」「シューティングゲーム」を発表した高見真奈人さん（みよし北中出身）は「課題研究を通してプログラミングをもっと深く学びたいと思った。将来はプログラマーになりたい」と夢を語る。

担任の天川勇規教諭は「普通科3年間でゲームが作れるようになったり、情報分析ができるようになった。形に残したことを自信に、直接的ではなくても社会につながる」と生徒らに伝えた。

同校は1974年創立。2007年に情報活用コースが設置され、18年から情報ビジネスコースと

「市内の普通科で唯一の情報ビジネスコースとして普通科の学習を基本に、情報系、ビジネス系を選択し、進学や就職に生かせる資格や能力を習得している。」

新三河タイムス 2021.12.02. 4面より

情報ビジネスコース

課題研究発表会を行いました。

11月19日に、情報ビジネスコース3年生が、逢妻交流館にて課題研究発表会を行いました。この様子が、新三河タイムス（12月2日付）に掲載され、生徒の主体的な研究が紹介されました。